

ゴミもあり味気ない。早々と黒戸尾根を下り、その日の内に三島に帰った。(文中敬称略)

(81年8月 日発行機関誌「くろゆり」第7号に収録)

解説

第8期冬山合宿

2889m

鹿島山荘

後藤 隆徳

●鹿島山荘(爺ヶ岳東尾根)爺ヶ岳

岳(鹿島槍ヶ岳)鹿島山荘

▽80年12月29日(81年1月1日)

▽C.L後藤隆徳(33) S.L竹端節

次(42) 食料毛利哲也(47) 食料

杉澤康秀(31) 氣象土屋友茂

(30) 會計霧木廣幸(31) 装備村

松正広(20) 装備土佐 昇(33)

医療小沢恵子(23)

「とりくみ」

南アルプスの課題は昨年で全て終了しいよいよ本年より待望の北アルプス後立山連峰の3ヶ年計画、すなわち鹿島槍ヶ岳、白馬岳、五竜岳が始まった。

1、80年3月総会にて決定。

2、5月2日(5日)に後藤、毛利、竹端、土佐、村松、伊藤(鈴木)

真理子は爺ヶ竹東尾根(鹿島槍を

南アの冬山総仕上げとして取組まれたが若手の退会、杉澤のケガ(ギックリ腰)などで最小人数パーティーとなった。しかし、3km級の山2峰を2人で縦走したのは評価できる内容であった。

偵察した。

3、10月11日(12日)に後藤、竹端、毛利、杉澤康、露木、今井芳、村松は東尾根2km付近に荷上げした。

4、11月29日(30日)に富士山吉田大沢で後藤、村松、露木、土佐、小沢は雪上訓練を行った。

5、12月4日(5日)に富士山5合目付近で毛利、杉山達、土佐、土屋は雪上訓練を行った。

12月29日(晴)

へタイム(三島8:05)爺ヶ岳スキー場17:45(泊)

山荘19:10(泊)

昨年毛利と仙丈岳東尾根を登った時、いつでもそうだが翌年の冬山についていろいろと話合った。

話題は昨年あたりからいわれている北アルプスでの冬山合宿だった。芳山の冬山も弘法小屋尾根(白峰三山、鋸岳)甲斐駒、聖岳東尾根(茶臼岳、仙丈岳東尾根)甲斐駒と確実に力をつけてきている。

会の平均年齢、機運等考えると来年は北アで冬山合宿をやる最良の機会と思えた。私と毛利の意見は合致し、来年は北アで冬山を實施しようと思いついた。

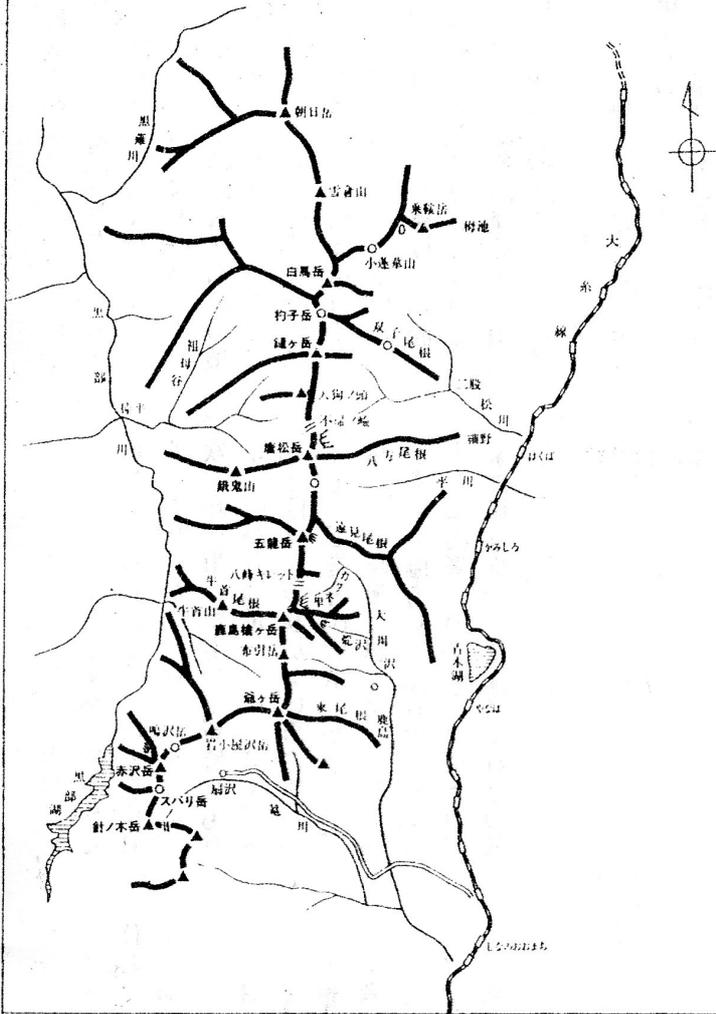
年末の山は69年来の大雪山で荒れに荒れすでに遭難者が続出していた。昨夜の天気図も大陸からマイナス45度という寒気団が南下してきた。2(3)日すれば北アはまた大雪になるだろう。家族は心配して「よせばいいのに」といった。

山に不安材料が多かった。だが私はその割には不思議と心に動揺もなく、気持ちは充実していた。北アの冬山という新鮮さもあつたが、何よりも8名の大勢の仲間と合宿が出来るのがそうさせていた。

三島駅発は7時半だったが竹端、土佐が遅れ8時5分になる。使用車は毛利のブルーバードと私が沼津の鈴木氏に借りた人形劇団の「ぶくぶく号」だった。今年はこの車を良く借りた。見送りは今井芳、杉澤好らが来てくれた。車が池田町を過ぎ大町に入ると雪は一段と多くなり約1m。近くのガソリンスタンドの屋根が雪の重みで落ち、久し振りの大雪を物語っていた。それに道路の除雪が充分でない所以对向車が来ると交換に苦労し時間も掛かった。中花見を過ぎ、鹿島川を渡り、爺ヶ岳スキー場に来るともう回りは暗くなった。しかも、この辺りの雪は全く締ってなく車はしばしば雪の中に入ってしまった。そのたびに私達は車の後押しをしなければならなかった。

スキー場の雪は約2mでその先は除雪してなかった。暗い中、荷物を整理し分担しランプをつけて出発。鹿島山荘には小1時間で着く。明日のルートを偵察すると、深い雪のなかハッキリとトレースはついていて、山荘の人の話だとすでに数パーティー入山しているとのことだった。山荘に戻り全員で囲炉裏を囲んで軽い食事をとり酒を飲む。竹端がその昔鹿島槍で遭難しここまで走って連絡に来たとか、山荘のバアさんの話を聞いて休む。フロンが冷たくて快適でなかった。

後立山連峰概念図



12月30日(晴)
 ▲タイムV起床3:00 出発6:00
 1BC(約2000m) 12:45
 (泊)

朝食をとり全装備で出発。荷物は次の通りだった。村松28kg、後藤27kg、露木27kg、土佐26kg、竹端26kg、土屋25kg、毛利24kg、小沢22kg、杉澤20kgと標識用竹。数分で例の急登が始まる。しかし、土屋が急に腰痛を訴えたので、彼の持っていた4・2kgの肉を皆で分けた。2回の休憩で東尾根に出

る。雪が多いので樹木が埋まり以前の印象と違って見える。爺ヶ岳が真っ青な空をバックに雪煙を上げていた。

しばらく登ると下山するパーティーに会う。そんな中、私は知人にバツタリと会った。東京で労山に加盟している「風の子山岳会」の人達だった。話を聞いてみると、ここ数日悪天候続きで登山活動は全く出来ず、今日の晴天を利用してやっと下山してきたという。やっぱりずっと天気は悪かっ

たのだった。

東尾根は相変わらず歩き易く、特に不調の者も出ず順調に進み、BC予定地の2000m台地に着いた。目の前には爺ヶ岳と鹿島槍

が迫力を持って迫る最高に展望の良い場所である。特に爺ヶ岳の主稜は首が痛くなる程鋭く天につき上げていた。鹿島槍のヒマラヤヒダも美しく、さすが北アルプスと思わせた。目を転じると、なだらかな東尾根の向こうには松本盆地が午後の斜陽にぶく光っていた。

秋の荷上げ品を掘るとゆうに3mはあった。そして一斗缶は雪の重みで所々へこんでいた。夕食はスキ焼だった。明日の打合せをする。16時の天気図は良かった。天候が良ければ、全員で鹿島槍まで行きたかった。だが、爺ヶ岳で良いという人もいたし、体力的にどうかと思う人もいた。安全を考えるとそれも考えなくてはならない。

結局槍には後藤、毛利、杉澤、村松の4名がアタックし、残りの

人は爺のみと決定した。夕食後は酒も入り全員最高にノリまくり夜は更けた。

12月31日(晴)

▲タイムV起床3:00 出発5:40
 1爺ヶ岳9:20 1冷池山荘10:10
 1鹿島槍ヶ岳12:10 1冷池山荘13:15
 1BC15:50(泊)

ゆうべは高気圧からの吹き出しの風がうるさかった。ランプをつけて出発。トンガリピーク(2198m)で夜が明けた。8ミリを回すが寒さですぐ止まってしまい閉口する。ジャンクシオン・ピーク(2430m)にはテントが3張あった。ここから爺まで太もものラッセルがあったが、青空のもと深雪をかけたの登行は最高の気分だった。こんな時つくづく思う。「これだから山は止められない。・・。」と。

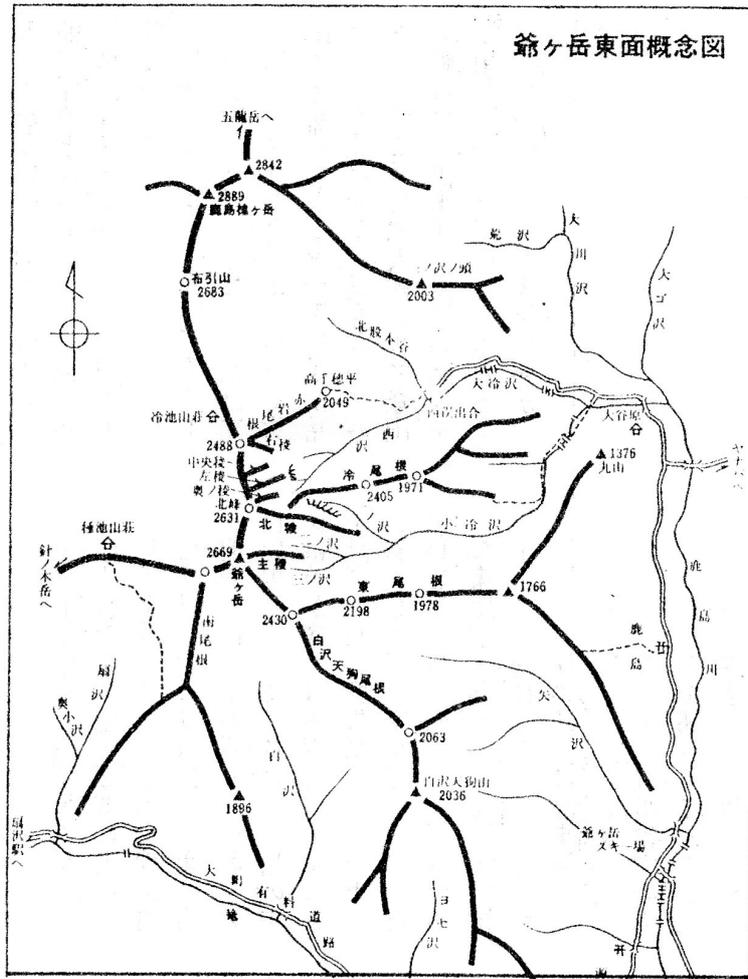
やがて9名は爺頂上に立ち堅い握手。三島芳山で初めて登った冬の北アルプスの頂。しかも、今日は女性を含んでいた。記念写真を撮りしばし360度の展望を楽しむ。しかし、私達4名はいつまでもここに留まっている訳にはいかない。私達はワンビークの装備を背負って槍に向かう。冷池山荘

には簡単に着き、荷物をデポしてさらに進む。私は疲労感がありピッチは仲々上がらない。8ミリ撮影もあるのでラストでゆっくり登る。布引岳を越えると南峰の頂が見え、沢山の人が上り下りしているのが良く分かった。本峰に取り付き、だだっ広い斜面を行くと3人はすでに頂にかかっていた。少しガスが出てきた最後の斜面を登り切ると平らな頂上に着いた。永い間夢みた冬の鹿島槍の頂上だった。意外と感激はなかった。少し疲れたためだろうか。8ミリの回し、行動食を口にする。ガスが濃くなり辺りの山は見えなくなった。寒い。すぐ下降に移る。途中トランシーブでBCを呼ぶが応答はなかった。今日ビバークするがBCに戻るかの判断基準になる冷池山荘には14時前に着いた。天候も安定しているので予定通り踵を返す。

疲れた体にムチ打って爺ヶ岳を登り返す。杉澤、村松は先行し、私と毛利はゆっくり行く。下りながら毛利と今年1年を振り返ってみた。BCに着いたが私は疲れ過ぎ、少し不機嫌でつまらない事を気にした。だが、テントに入り温かい物をとると安堵感が体を被い

リラックスしてきた。夕食は食料が余っているので豪華な物を作る。酒も入り歌も出る。だけど皆疲れしているせい。昨日日程元気がない。歌も昨日唄ったもので新鮮味もない。何かもの足りない。考えてみると自分達の歌がない事に気がつく。「三島芳山の歌」が欲しい。私はこの時そう思った。杉澤も同じ考えで協力してくれた。原案はすぐに出来たのでテープに入れ、家に帰り整理して採譜すればOK

だ。アタック隊4名はエスパースで休む。いろいろ話をして新年を迎えた24時過ぎに寝た。



1月1日(晴)
 ヘタイム 起床 6:00 出発 10:00
 鹿島山荘 12:30 爺ヶ岳スキ場 13:45 三島 21:30
 今日も天気は良い。皆で外に出て日の出を見ながら、8ミリの回し、新年の抱負を語り合う。そし

て山々はモルゲンロートに染まる何と神々しいことか。テントの前を幾組かのパーティーが山に向かって行く。荷物を整えテントを撤収して下山開始。

私は8ミリのラストシーンを撮影するために早く下り、1978m峰でカメラを回す。純白の鹿島槍、爺ヶ岳をバックにひとつの事をやりとげたアルピニストが下山してくる。実に絵になるシーンだった。ここではチャイコフスキの曲を使おうかと思った。撮り終え私も下山。足どりは軽く、今回の山行に充分満足している自分が分かった。(文中敬称略)

(82年3月26日発行機関誌「くろゆり」第8号に収録)

解説 この年よりいよいよ三島芳山の北ア冬山挑戦が始まった。3年計画で後立山の鹿島槍ヶ岳、五竜岳、白馬岳を登る予定だった。会は若い元気のある男女会員が増え、再び以前の活気が戻った。記念すべきこの冬山A隊に初めて女性の参加があり成果を残し、以後常念岳まで3年間、A隊に女性が参加する「常識」を作った。